

ワクチン情報文書

B 型肝炎ワクチン： 知っておくべきこと

Many Vaccine Information Statements are available in Japanese and other languages. See www.immunize.org/vis

多くのワクチン情報の説明が、日本語やその他の言語で利用することができます。
www.immunize.org/vis をご覧ください。

1. ワクチン接種を受ける理由は？

B型肝炎ワクチンはB型肝炎を予防できます。B型肝炎は、数週間続く軽度の症状を引き起こす可能性のある肝疾患になることもあれば、深刻で生涯にわたり続く病気に進展する可能性があります。

- ・ **急性のB型肝炎の感染**は、発熱、疲労感、食欲不振、吐き気、嘔吐、黄疸（皮膚や目の白い部分が黄色くなること、濃い色の尿が出る、褐色の便が出る）、筋肉、関節、胃の痛みなどが起こる短期間の病気です。
- ・ **慢性のB型肝炎の感染**は、B型肝炎ウイルスが感染者の体内に残ったときに起こる長期的な病気です。慢性B型肝炎を発症するほとんどの人は無症状ですが、依然として非常に深刻であり、肝障害（肝硬変）、肝臓がん、および死亡につながる可能性があります。慢性肝炎感染者は、本人に自覚症状がなく外見上健康に見えても、B型肝炎ウイルスをうつしてしまう可能性があります。

B型肝炎は、B型肝炎ウイルスに感染した血液、精液、またはその他の体液が、感染していない人の体内に侵入したときにうつります。以下の経路から感染する可能性があります。

- ・ 出産（母親がB型肝炎感染者の場合、赤ちゃんが感染する可能性があります）
- ・ 感染者とカミソリや歯ブラシなどを共有すること
- ・ 感染者の血液または開いた傷口に接触すること
- ・ 感染者との性行為
- ・ 注射器、注射針、その他薬物注入器具の共用
- ・ 感染者の血液が付着した針やその他先の尖った器具を誤って刺した場合

B型肝炎ワクチンの接種を受けた人のほとんどは、生涯にわたって免疫を獲得します。

2. B 型肝炎ワクチン

B型肝炎ワクチンの接種は通常、2、3、または4回行われます。

乳児は出生時に初回のB型肝炎ワクチンの接種を受ける必要があります。通常は生後6～18か月で残りの接種を完了します。**出生時のB型肝炎ワクチンの接種は、乳児の長期疾患および米国におけるB型肝炎の蔓延を予防する上で重要な部分となっています。**

19歳未満の小児および青年で、以前にワクチン接種を受けたことがない場合は、予防接種を受ける必要があります。

以前にB型肝炎ワクチンを接種したことがなく、A型肝炎の感染予防を希望している**成人も**、ワクチンを接種することができます。

B型肝炎ワクチンは、以下に該当する人にも推奨されます。

- ・ セックスパートナーがB型肝炎感染者である
- ・ 不特定多数のセックス・パートナーがいる
- ・ 性感染症の検査や治療を希望している
- ・ 性的暴行または性的虐待の被害者
- ・ 他の男性と性的接触を持つ男性
- ・ 注射器、注射針、その他薬物注入器具を共用している
- ・ B型肝炎ウイルス感染者と同居している
- ・ 血液または体液に接する機会が多い医療従事者および公共安全に携わる職員
- ・ 発達障害者向け施設の入所者および職員
- ・ 矯正施設の入所者
- ・ B型肝炎の流行地域への旅行者
- ・ 慢性肝疾患患者、透析中の腎疾患患者、HIV感染者、C型肝炎感染者、糖尿病患者

B型肝炎ワクチンは、単独のワクチンとして、または混合ワクチン（複数のワクチンを1回の注射で接種するワクチンの一種）の一部として接種することができます。



U.S. Department of
Health and Human Services
Centers for Disease
Control and Prevention

B型肝炎ワクチンは他のワクチンと同時に接種してもかまいません。

3. 担当の医療従事者にご相談ください

以下のような方がワクチンを受ける場合には、担当するワクチン接種を行う医療従事者にご相談ください。

- ・過去にB型肝炎ワクチンの接種後にアレルギー反応を起こしたことがある、または重度の生命を脅かすアレルギーがある

場合によっては、担当の医療従事者がB型肝炎ワクチンの接種を次の来院まで延期するように判断する場合があります。

妊娠中または授乳中の人でB型肝炎にかかるリスクがある場合、ワクチン接種を受ける必要があります。妊娠または授乳を理由に、B型肝炎ワクチンの接種を避けるべきではありません。

風邪などの軽い病気にかかっている、ワクチン接種を受けることができます。病気が中程度または重度の場合は、回復してからB型肝炎ワクチンを接種するほうがよいでしょう。

詳しい情報については、担当の医療従事者にお尋ねください。

4. ワクチン反応のリスク

- ・B型肝炎ワクチン接種後には、注射した部位の痛みや発熱などの反応がみられることがあります。

ワクチン接種を含め、医学的な処置により失神する方もいます。目まいや視力の変化、耳鳴りなどを感じたら、担当医療従事者にお伝えください。

どんな医薬品でもそうであるように、ワクチン接種により重度のアレルギー反応や、その他の重篤な傷害や死亡が起こる可能性はごくわずかにあります。

5. 重度の問題が起きたら？

アレルギー反応は、ワクチン接種を受けたクリニックからの帰宅時に生じることがあります。重度のアレルギー反応の症状(蕁麻疹、顔やのどの腫れ、息苦しさ、速い鼓動、目まい、倦怠感)があった場合は、9-1-1に電話し、最寄りの病院を受診してください。

Japanese translation provided by Immunize.org

気にかかる他の症状がある場合は、担当の医療従事者にお電話ください。

有害反応は、Vaccine Adverse Event Reporting System(ワクチン有害事象報告システム: VAERS)に報告する必要があります。通常、担当の医療従事者がこの報告書を提出しますが、あなたもご自身で提出することができます。VAERSのウェブサイトアクセスいただくか www.vaers.hhs.gov、1-800-822-7967までお電話ください。VAERSは反応の報告のみを目的としているため、VAERSのスタッフは医学的な助言は行いません。

6. 全米予防接種傷害補償プログラム

National Vaccine Injury Compensation Program(全米予防接種傷害補償プログラム: VICP)は連邦プログラムであり、特定のワクチン接種により傷害を受けた可能性のある方々に補償するため設立されました。ワクチン接種による傷害または死亡の疑いに関する補償請求には提出期限があり、2年という短期間の場合があります。VICPのウェブサイト www.hrsa.gov/vaccinecompensation をご覧になるか、1-800-338-2382までお電話いただき、プログラムの詳細および補償請求の方法についてご相談ください。

7. 詳しい情報を知るには？

- ・担当の医療従事者にお尋ねください。
- ・お住まいの地域または州の保健局にお電話ください。
- ・ワクチンの添付文書および追加情報については、Food and Drug Administration(米国食品医薬品局: FDA)のウェブサイト www.fda.gov/vaccines-blood-biologics/vaccines をご覧ください。
- ・Centers for Disease Control and Prevention(疾病管理予防センター: CDC)にお問い合わせください。
 - 電話 1-800-232-4636 (1-800-CDC-INFO)または
 - CDCのウェブサイト www.cdc.gov/vaccines をご覧ください。

